

トスカの殺人について

情報工学科 4 年 本澤 亮

ヒロインであるトスカがどのような人間であるか考えてみる。トスカは敬虔なカトリック教徒で嫉妬深い女であるということは、このオペラを見た者は全員同意できると思う。しかし、第 2 幕でトスカがスカルピアを刺し殺す場面があるが、これは多くの鑑賞者にとっても、登場人物であるスカルピアやカヴァラドッシにとっても意外な行動であったと考えられる。スカルピアが彼女のこの行動を想定できていればそもそも殺されるようなことは無かっただろうし、カヴァラドッシも第 3 幕で「優しく従順で汚れのない手が(略)聖なる武器を託したのか」というふうに驚きをもって受け止めている。敬虔な彼女がなぜ人を殺すということができたのだろうか？これはカヴァラドッシへの愛がそれ以上に強かったため、と説明することもできる。しかし、私は彼女の信仰心というのは、あくまで形式的で、自分のことになると都合の良い解釈をしてしまいがちであるから、このような結果に至ったと考える事もできるのではないか。上のように彼女の信仰心を捉える根拠としては、第 1 幕でカヴァラドッシとの別れの際、「マリア様の前で？」と問うカヴァラドッシに①「許してくださるわ」と答えている。またスカルピアに騙され、カヴァラドッシを疑い激昂する際もスカルピアが「聖堂の中ですぞ！」となだめるが、「神様もお許し下さるわ私の涙をご覧になっていますもの」とやめない。つまり、彼女は、ひどい目にあっている自分なら神も許すであろうと、自分に都合の良いような考え方をしていると考えられる。②スカルピアを刺す直前、食卓からナイフを手にとるとき、何かを考えているような様子の彼女は、これから行う殺人を、どのような言い訳で神に赦されたことにするか考えた後、実行に移したのではないかと私は思う。③彼女は宗教により自身を律しているというより、自身の行動が宗教により理由付けられていることにして、心の平安を得ているのではないか。このように考えることで彼女が殺人に至った心の流れを理解できると考える。

(早坂コメント)

- ① 台本は *È tanto buona!* 「とてもお優しい方ですもの！」 ← 「許してくださるわ」は意識。意味はほぼ同じ。(著作権の問題を避けるため、公演の字幕などは若干変えるのが一般的なので。) とくに問題はない。

- ② 鑑賞ソフトでは、トスカがナイフを背後に隠したあと、右手で十字を切っている。ここで神の許しを請うていると考えられる。
- ③ サルドゥの戯曲にあるように、もともとトスカは田舎の羊飼いで、ベネディクト会がヴォランティアで宗教、音楽の教育を授けた。トスカの宗教心はメッキのようなもので、いざとなると本来の野生児が顕れる、と考えることもできそう。